

事案名	浜名湖周辺（館山寺）の事案（静岡県 22 - 1 - 1）
フォローアップ調査資料	・証言（昭和 25 年当時農民だった住民の証言）〔 13 〕 ・証言（〔 13 〕の弟の証言）〔 14 〕 ・『静岡新聞』昭和 27 年 7 月 17 日〔 16 〕 ・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査結果について（報告）」平成 15 年 9 月 26 日〔 18 〕
追加資料	・『平和への祈り』平成 12 年 2 月 25 日〔 A1 〕 ・証言（昭和 27 年当時小学生だった住民の証言）〔 A2 〕 ・『平成 16 年度国内における旧軍毒ガス弾等に係る情報収集及び取りまとめ業務報告書』〔 A3 〕
平成 15 年度フォローアップ調査報告書の要約	昭和 25 年 9 月以降、旧軍の毒ガス入りと思われるドラム缶を、自衛隊員と思われる 3 ～ 5 名の人物が浜松市呉松町の松林内に埋設している現場を目撃した。 ○発見・被災・掃海処理等情報 ・昭和 25 年 9 月以降（浜名湖掃海後）に、旧軍の毒ガス入りと思われるドラム缶を、自衛隊員と思われる 3 ～ 5 名の人物が浜松市呉松町の松林内に埋設している現場を目撃したとの証言がある〔 13 〕。また、同証言者の弟は、遠州灘掃海後に館山寺の湖岸に打ち寄せられたドラム缶を目撃し、また、叔父（昭和 20 年に浜名湖へ投棄した従事者）から缶の埋めた場所を聞いたと証言している〔 14 〕。 ・昭和 27 年 7 月 15 日、館山寺北浜名湖岸にドラム缶 1 缶が漂着しているのが発見され、東浜名地区北庄内村派出所に届け出された。ドラム缶は、派出所が処理した〔 16 〕。 ○現在の状況 ・館山寺大草山付近の井戸水からはヒ素は検出されなかった。館山寺大草山の山林は利用されていない〔 18 〕。
新たな情報	○発見・被災・掃海処理等情報 ・郷土史研究家は、浜名湖に投棄された毒ガス缶について、「岸に打上げられるドラム缶（200ℓ入り）があり、手が爛れて、漁師をやめた人がいたという（地元住民談）。証言者（旧軍に勤務していたトラック運転手）も、呉松の漁師が火傷のような怪我をしたことや、証言者自身もドラム缶を 4 ～ 5 本運んだという。」と記している〔 A1 〕。 ・昭和 27 年頃、山林内で、200ℓ缶よりも小型のドラム缶が一部頭部を露出した状態で 2 列 3 個ずつ並んで埋められ、周辺に石灰と思われる白い粉が撒かれていたのを目撃したが、家族からは毒ガスなので近づくなと言われた。その後缶がどうなったかは覚えていない、との証言がある〔 A2 〕。

	○その他情報 ・浜松市が行った周辺 5 つの井戸の水質調査では、ヒ素は、環境基準値（0.01mg/l）以下であった〔A3〕。
環境調査の結果	○地下水・大気（表層ガス）・土壌調査 ・平成 17 年度に、毒ガス缶の埋設情報に係る場所において 2 地点の表層ガス調査及び 11 地点（3 検体）の土壌調査を実施した結果、毒ガス成分は検出されなかった（資料 3 - 1 の「別表 B / C 事案及び新規事案に係る環境調査の結果一覧表」参照）。